

研究・調査報告書

報告書番号	担当
395	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
A cohort study of the effect of alcohol consumption and obesity on serum liver enzyme levels 飲酒と肥満による血清肝酵素レベルへの影響に関するコホート研究	
執筆者	
Shen Z, Li Y, Yu C, Shen Y, Xu L, Xu C, Xu G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Gastroenterol Hepatol. 2010 Jul;22(7):820-5.	
キーワード	
飲酒、肥満、肝酵素、コホート	
要 旨	
<p>目的： 中国においてアルコールと肥満による血清肝酵素レベルへの影響に関するコホート研究。</p> <p>方法： 1999 年からの疫学調査でランダムに選ばれた 500 人の肝酵素正常者で、2006 年に再調査を受けた人 (461 人) を対象者とした。</p> <p>結果： ロジスティック回帰分析によって、日常的 40 g 以上の飲酒、10 年以上の飲酒歴および肥満が、肝酵素レベル異常と密接に関連していた。相対リスク (95 %信頼区間)はそれぞれ、2.014 (1.108-3.662)、2.085 (1.106-3.928) および 1.775 (1.140-2.819)、(すべて $P < 0.05$)。日常的 40 g 以上の飲酒かつ肥満グループまたは 10 年以上の飲酒歴かつ肥満グループは 7 年間肝酵素レベル異常の累積発生率が最も高く、それぞれ 51.47 と 47.12 %であった。日常的飲酒量や飲酒期間と肝酵素レベル異常との間に有意な用量反応関係は認めなかった。</p> <p>結論： 飲酒かつ肥満が誘発する肝傷害リスクは単独で誘発する肝障害リスクよりずっと大きい。飲酒におけるある域値が用量反応より肝酵素レベルに与える影響が大きいかも知れない。</p>	